



## 不正行為！

テストが始まりました。この学年は1年生のときからテスト中の不正行為はありません。皆さん集中してテスト問題を解いています。しかし、隣の人の答案用紙を横目で見えたり、事前に机にテストにでる重要語を小さく書いておいたりする人が過去にはいました。テスト中にこのような不正行為は絶対に認められません。

特に、他人の答案用紙の答えを見て自分の答案用紙に書き込む行為はカンニングと呼ばれています。これは、他人の知識を盗む行為となります。お店にある商品を盗んだり、人の鞆の中から物を盗むのと同じ行為です。人の物をとる行為はだれも「窃盗」にあたることはわかります。しかし、カンニングは物は奪いません。他人の知識を奪う行為となります。知識は目に見えないので、実際に答案を見たか見なかったかも自分以外にはわかりません。ですので、人の物（知識）をとったという感覚を持ちにくいと思います。知識は物でないのになぜ、とってはいけないのでしょうか？

物は、その所有者の財産です。財産は貴重な時間を費やして働いて手に入れた物です。人生は限られたものです。約100年近い人生の中で人は生きています。時間は限られています。その限られた中の時間を費やして手に入れた物はその人の一部ということになります。たとえば50年かけて作り上げた物（財産）・手に入れた物（財産）はその人の人生の半分の価値を持っているということになります。ですので物をとると言うことはその人の人生の一部を奪うことになるのです。法律では、一人ひとりの財産が奪われないように定められています。財産は自分の体の一部なのです。人権なのです。

知識も財産です。その知識を覚えるのに、理解するのに、何時間も人生の貴重な時間を費やして勉強したのだと思います。その知識を見て自分の答案に写すということは、友達の知的財産を奪ったこととなります。目に見えない物も財産であることを知っておいてください。知識はその人の財産なのです。